

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あぶれんどやはたひがし			
○保護者評価実施期間	R8年 2月 7日		～	R8年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数)	22名
○従業者評価実施期間	R8年 2月 7日		～	R8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による支援ができる	理学療法士・作業療法士・保育士など専門職による直接支援が行える	職員の知識・技能を高めるため、外部の研修会への参加や内部研修などを行っていく
2	来所時には、個別療育と集団療育の両方を行っている	個別療育での1対1のきめ細やかな支援と、集団療育では集団行動のルールや社会性を学べるような活動の提供	個々のニーズに合わせた個別療育の実施や、集団内では個別活動や集団活動を組み合わせて行っていく
3	保護者との情報共有や連携	送迎時や面談など直接関わる機会や、連絡帳の記入などで保護者との情報共有を密に行っている	今後も継続して児童・保護者に寄り添った面談や支援を行っていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の場がない	小学校へのお迎えから自宅への送迎の為、保護者同士が情報共有できる機会がない	保護者会の開催などを検討し、保護者同士が交流できる機会を作っていく
2	災害時の対応についての周知が足りない	定期的に訓練を実施しているが、参加できる児童が限られているため、保護者への周知が徹底されていない	災害時や緊急時の対応について、職員に周知するとともに、保護者へ周知・説明をしていく
3	情報伝達について	現在情報伝達の方法にメールやアプリを使用したツールがないため	連絡帳以外の伝達方法も今後検討していきたい